

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

				平成	28	年度
事業番号	818		事業名	緑の産業活力創生プロジェクト事業		
担当課	産業観光課		担当係	林業水産係		
総合計画に最も関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり	連絡先	0858-76-0208	
	施策体系	1	農林水産業の振興	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	森林境界の明確化、高性能林業機械導入、貯木場(追加)整備に対する補助				
予算区分	款	5	農林水産業費	事業実施主体	□八頭町 ■その他	
	項	2	林業費			
	目	2	林業振興費	計画期間	開始	平成27年度
	事業	818	緑の産業活力創生プロジェクト事業		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町内で事業を実施する林業事業体		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 適正な施策が速やかに行われる環境を整備し、森林の公益的機能の維持を図る。		
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 森林境界の明確化、高性能林業機械の導入、貯木場(追加)整備		
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 ●当該森林および隣接する森林の所有者・関係者立会いのもと、境界に杭等を設置し、明確化する。 ●高性能林業機械、貯木場については、入札を行い、購入・整備を行う。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 ●地籍調査未実施地区の森林の境界が明確化される。 ●高性能林業機械が導入される。 ●貯木場が(追加)整備される。		
根拠法令等	4	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 八頭町農林水産業間接補助事業補助金交付要綱

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A		
	B		
	C		
	D		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	ha	森林境界明確面積
	B	台	高性能林業機械導入台数
	C	箇所	貯木場(追加)整備箇所数
	D		

4 コスト

区分		単位	25年度	26年度	27年度		28年度		29年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A								
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	ha	50.00	24.49	0.00	0.00	20.00	20.00	20.00
	B	台	1	3	2	2	1	1	1
	C	箇所	-	1	0	0	1	1	0
	D								
トータルコスト		千円	40,940	210,990	21,700	17,700	44,150	180,900	5,150
担当職員数		人	0.15	0.50	0.15	0.15	0.25	0.25	0.25
職員人件費		千円	1,200	4,000	1,200	1,200	2,000	2,000	2,000
事業費		千円	39,740	206,990	20,500	16,500	42,150	178,900	3,150
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円	39,740	206,990	20,500	16,500	39,150	178,900	3,150
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円							
一般財源(単町費)		千円							

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 28 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)	
	間伐施業実施のための高性能林業機械(ハーベスタ等)を新規導入する。	
	成果(具体的に)	高性能林業機械(タワーヤーダ1台)を計画通りに導入し、効率的な施業実施及び施業規模の拡大を図った。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	水源涵養、災害防止機能等森林が有する公的機能を維持するため、適切な森林整備を行う必要がある。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	施業の高効率化・合理化を図るうえで導入する高性能林業機械は非常に高額であるため、林業事業体単独での導入は難しく、行政による財政的な支援が必要である。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	20	20	①効率的である	高性能機械導入に際しては、入札等を行い適正な価格の確保を図っている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	7	20	①緊急性が高い	水源涵養、災害防止機能等森林が有する公的機能を維持するため、適切な森林整備を行う必要はある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	13	20	①成果が上がっている	高性能林業機械(タワーヤーダ1台)を計画どおり導入した。今後、この機械を活用することにより森林施業の効率化・規模拡大等が図られる。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	73	水源涵養、災害防止機能等森林が有する公的機能を維持するためには、適切な森林整備を継続して行う必要がある。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	評価点による判定	
	4、見直しの上縮小する	40～49点	2	
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	本事業は、林業事業体が取り組む木材加工流通施設やバイオマス利活用施設の整備等を支援し、強い林業・木材産業の構築、県産材の安定的・効率的な供給体制の構築を図るためのものであり、平成28年度も補助率10/10の交付金を活用して、町内事業者が行う間伐施業実施のための高性能林業機械の導入に対する助成を行っている。地域経済を大きく牽引するような民間企業が少ない本町において、意欲ある林業事業者に対して、国県支出金等を活用しながら財政的な支援を行うことは、町面積の大部分を占める山林を地域産業の強みとして活用するために、事業の必要性は認められる。今後も、国県支出金を活用しながら、木材産業の強化のための効果的かつ効率的な事業推進に努められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 本補助事業は、県の基金運用益を財源としているが、財源減少に伴って、補助対象がバイオマス関連に限定されることとなったため、他の補助事業の活用等を検討しなければならない。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 安定的に事業が継続できるよう、国・県に対する財政支援をしっかりと要望していくとともに、活用できる他の補助事業を模索する。